

事業所名 みんなで笑顔「木のおうち2っ！」

児童発達支援 支援プログラム

作成日

令和7 年

2 月

28 日

法人（事業所）理念		赤ちゃんから高齢者の方まで、子育て、障害、認知症、介護、病気を理由に孤立せず抱えこまず、自分らしく住み慣れた場所で暮らし続けられる社会をつくる		
支援方針		自分の思いを発信でき、その思いが大切にされる経験や、「自分で出来た」「わかった」と感じられ、「もっとやってみたい」と思うことのできる経験を積み重ねていくことができるよう、支援します。		
営業時間		9 時 00 分から 17 時 00 分まで	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容				
本人支援	健康・生活	体調や気分の状態などの理解に努め、心身ともに健康に過ごすことができるよう支援します。食事・排泄・着替えなど基本的な生活スキルをともに練習します。		
	運動・感覚	日常生活に必要な動作（食事・着替えなど）を、実際の場面でともに練習します。体を動かす楽しい遊びや集団活動を用意し、粗大運動や微細運動など、様々な運動の機会をつくります。感覚過敏や感覚鈍麻など、感覚の特性に対する環境調整を行ない、心地よく安全に過ごせる環境づくりに努めます。		
	認知・行動	本人にとってわかりやすい方法でスケジュールやルールを伝えるなど、認知特性に基づいた対応を行ないます。色・形・数・時間などの概念形成を図ります。本人にとってわかりやすく、安心できる環境設定や関わりに努め、関係する方々とも情報共有を行ないながら、行動障害を予防し適切な行動の獲得を支援します。		
	言語 コミュニケーション	自分のやりたいことや、自分の気持ちが伝わる経験を積み重ね、コミュニケーションの良さを実感し、もっと伝えてみようと思えるような関わりを行ないます。本人の興味や強みを活かし、コミュニケーション能力の獲得を支援します。各種コミュニケーション手段を活用し、本人の思いの把握に努めます。遊びや活動の中で様々な言葉に触れる機会や、お友達に自分の思いを伝えたり相手の思いを受け取ったりする機会をつくります。		
	人間関係 社会性	一緒に楽しく遊んだり心地よい関わりを経験したりすることを通して、安心感や信頼感を持てる関係を構築できるよう努めます。一人で行なう感覚運動遊びから象徴遊び・共同遊びへと遊びの幅を広げる関わりを行ないます。自由遊びや集団活動の中で子ども同士の関わりを促進し、ルールやマナーを学び、集団参加の練習を行ないます。		
家族支援		日頃から困りごとをともに考え、本人の成長をともに喜ぶことができるような関係構築に努めます。年2回の面談や年1回施行の「S-M社会生活能力検査」を通して、本人の発達状況や課題、ご家族の意向の把握に努めます。レスパイト時間の確保や就労等による預かりニーズに対応した延長支援を行ないます。家族全体を理解する視点を持ち、必要な関係機関と連携します。	移行支援	移行先と本人の特性や支援内容について情報共有を行ないます。地域の方との交流機会をつくります。
地域支援・地域連携		本人に関わる関係者が集うサービス担当者会議に参加し、よりよい支援についてともに考えます。その他、必要に応じて随時、相談支援専門員、併用利用施設、教育・保育機関、医療機関、自治体、児童相談所等と連携します。	職員の質の向上	法人内にて虐待防止・権利擁護研修（年1回）、感染対策研修（年2回）を行なっています。年に数回、外部講師をお招きした研修、オンライン研修も活用しています。県主催の研修にも職員を派遣しています。事業所内にて月に1回、障害・疾患の理解や支援方法の向上のための勉強会を行なっています。
主な行事等		もちつき、夏祭り、クリスマス会など。		